

海浜エリア活性化ビジョン

令和5年10月
仙台市

目次

1. はじめに

- (1) ビジョン策定の経緯と趣旨 1
- (2) 海浜エリアの範囲 1

2. 海浜エリアの姿

- (1) 海浜エリアの現状 2
- (2) 貞山運河の賑わい創出に向けた動き 6

3. これからの海浜エリアを考えるために

- (1) ヒアリングの実施 7
- (2) 人々の声、そして想い 8
- (3) 海浜エリアの将来像につながる要素 10

4. 海浜エリアのコンセプト及び将来像イメージ

- (1) 海浜エリアのコンセプト 11
- (2) 将来像のイメージ 11

5. 本市の取り組みの方向性

- (1) 集いの空間づくり 14
- (2) 親水空間としての貞山運河利活用 15
- (3) 様々な「つながり」を大きな「つながり」に 15

6. ビジョンの推進

- (1) 本市の計画・施策への反映 17
- (2) 本市における推進体制 17
- (3) ビジョンの共有と連携 17

参考資料

- 1. 海浜エリア活性化シンポジウム 18
- 2. 本市関連計画等における海浜エリアの位置づけ 20
- 3. ヒアリング調査 22
 - (1) 概要 22
 - (2) 調査結果 23

1. はじめに

(1) ビジョン策定の経緯と趣旨

本市東部沿岸地域は、東日本大震災の津波により甚大な被害を受けました。本市では、復旧・復興に取り組むとともに、防災集団移転跡地の利活用を推進し、民間の自由な発想を活かした新たな魅力の創出等に取り組んできたところです。

現在、地域住民・団体、民間事業者、行政機関等が、この地域の活性化に向けた活動を展開しています。東部沿岸地域の魅力の一層の向上に向けては、目指す将来像を共有し、相互に連携・協力して取り組んでいくことが重要です。

本ビジョンは、東部沿岸地域の将来像を示し、多様な主体がこれを共有しながら各々の活動をつなぎ、発展させることによって、この地域の魅力を相乗的に高め、広く発信していくことを目的として策定するものです。

なお、本ビジョンは、概ね現行の仙台市基本計画（2021-2030）の終期となる 2030 年頃を見据えたものとします。

(2) 海浜エリアの範囲

今後更なる取り組みの発展や新たな利活用が期待されるエリアとして、概ね仙台東部道路から東側、宮城野区の仙台塩釜港から、若林区藤塚及び名取市閑上を含む南北約 12km の範囲を「海浜エリア」とします。

2. 海浜エリアの姿

(1) 海浜エリアの現状

豊かな自然と人々に育まれる緑

多様な生き物が生育・生息する海岸線、その海岸線に沿って流れる歴史的遺産貞山運河、自然とのふれあいやスポーツを楽しめる海岸公園、仙台の食を支える田園地帯等、海浜エリアには人々が思い思いに関わりを持てる自然が広がっています。

環境保全・清掃活動の取り組みも盛んに行われており、津波により大きく姿を変えてしまった海岸防災林では市民協働による植樹・育樹活動や定期的なビーチクリーン活動、自然環境を生かしたフットパスの取り組みが展開されています。

震災の記憶と地域の想いをつなぐ活動

震災による被害を大きく受けた海浜エリアには、被災された方々へ想いを馳せるとともに、震災の記憶と経験、この地域で続いてきた文化や人々の営みを未来へとつなぐ拠点として、せんだい3.11 メモリアル交流館や震災遺構仙台市立荒浜小学校、なかの伝承の丘等が整備されました。

また、この地に関わる様々な方々の手によって慰霊碑等の整備や管理、慰霊祭や鎮魂イベントが行われ、災害への意識と備え、土地の歴史や人々の想いを絶やすことなく語り継ぐ取り組みが進められています。

復興のその先へ向けた取り組み

震災後、海浜エリアでは体験型観光農園や温泉複合施設等の商業施設、市民農園や地域交流施設等による新たな賑わいづくりが進められています。2019年には施設管理者や事業者等による仙台東部エリア交流施設連絡協議会（現：仙台海手ネットワーク）が発足し、エリア内の連携を促す取り組みも進んできました。

海浜エリアへの公共交通アクセス

本市中心部から東へ約10kmに位置する海浜エリアへは、JR仙石線や市営地下鉄東西線が便利です。JR中野栄駅からは仙台港周辺地区に向けて、地下鉄荒井駅からは南蒲生・新浜・荒浜地区に向けてそれぞれ路線バスが運行するほか、いくつかの商業施設では最寄り駅との間で無料シャトルバスも運行されています。

海浜エリアの 8 地区と主な施設・資源等



海浜エリア 8 地区の現状

仙台港周辺地区

- 仙台港背後地土地区画整理事業により三井アウトレットパーク仙台港等の大型商業施設の立地が進んだほか、中野中央公園や仙台うみの杜水族館等が整備され、多くの人が訪れる観光拠点となっている。
- 「みなと」を核とした地域振興の取り組みが継続的に行われる「みなとオアシス」として、地区内の13施設から構成される「みなとオアシス仙台港」が2018年に国土交通省より認定・登録された。
- 地区内には物流・産業拠点多く、宿泊施設もある。
- 震災後に初めて新規に整備する大規模公園として高砂中央公園が整備され、2023年から遊びの広場や見晴らしの丘等、一部施設の供用を開始した。



三井アウトレット
パーク仙台港



仙台うみの杜水族館

中野・蒲生地区

- 国指定仙台海浜鳥獣保護区の特別保護地区に指定されている蒲生干潟や、日本一低い山と言われている日和山がある自然豊かな地区である。
- 貞山堀（御舟入堀）にまつわる遺跡や神社等、歴史的資源が点在している。
- 震災で犠牲になられた方々の追悼・鎮魂と地域の歴史を後世に伝えるため、閉校した中野小学校の跡地に設置された地域モニュメントなかの伝承の丘は、地域の人々の心の拠りどころとして大切にされている。
- 仙台塩釜港はサーフポイントとして全国的に有名で、日本サーフィン連盟公認の大会「仙台新港マスタース」が向洋海浜公園を会場に開催されている。
- 蒲生北部被災市街地復興土地区画整理事業により基盤整備と土地の集約化が図られ、地区内には運輸業や製造業等多くの企業立地が進んでいる。



蒲生干潟



なかの伝承の丘

南蒲生地区

- 海岸公園復興基本計画では「野球、テニスや軽スポーツを楽しむゾーン」と位置付けられており、野球場が6面、テニスコートが10面整備され、仙台市内でも屈指の規模を有するスポーツ公園となっている。
- 跡地利活用事業により2020年にドッグランが整備され、愛犬家が集うことで新たな賑わいが生まれている。



海岸公園野球場



ガモウパーク

新浜地区

- 地元町内会が主体となり、地域の交流の場としてグラウンド・ゴルフ場や体験農園等を整備している。
- ハマヒルガオなどの海浜植物が自生する海辺や海岸防災林等の豊かな自然環境を活かし、動植物の生態観察会が開催されているほか、ビオトープの維持や保護活動が行われている。
- 貞山運河での舟遊びや周辺の散策を行う新浜フットパス等のイベントが、地域の人たちの手で定期的に行われている。
- 「優れたアーティストのユニークな視点と仕事」と、地域の「人材、資源、課題」をつなぐアートプロジェクトの一環である仙台インプログレスにより、貞山運河沿いに「みんなの木道」や「新浜タワー」が設置された。



新浜フットパス



新浜タワー

荒浜地区

- 海岸公園復興基本計画では「水辺のレクリエーションやパークゴルフなど多様なレクリエーションを楽しむゾーン」と位置付けられており、パークゴルフ場等が整備されている。
- 震災の教訓と地域の記憶を後世に伝える震災遺構仙台市立荒浜小学校や震災遺構仙台市荒浜地区住宅基礎、地域モニュメント等が整備されている。
- 毎年8月に貞山運河で荒浜灯籠流しが行われており、2019年からは震災の鎮魂の願いを込めた花火が打ち上げられている。
- 跡地活用事業により2021年に果物狩りを楽しめる観光農園が整備され、多くの家族連れで賑わっている。
- 市内で唯一の海水浴場があったが、震災後は再開されていない。2022年からは実行委員会による親水イベントが開催されている。



震災遺構荒浜小学校



荒浜灯籠流し

井土地区

- 海岸公園復興基本計画では「プレーパーク活動、乗馬、デイキャンプなどの体験活動を行うゾーン」と位置付けられており、馬術場や冒険広場等が整備されている。
- 地域住民や元住民が中心となった清掃活動や自然観察会等のイベントが開催されている。
- 井土ねぎに代表される農業が盛んな地域であり、旬の農作物の販売や、地域活動団体との連携による出店等が行われた井土プチマルシェが2022年から開催され、多くの人々で賑わっている。
- 仙台インプログレスの一環として、2023年に地域の人々の集いの場としてパーゴラとベンチが設置された。



海岸公園冒険広場



海岸公園馬術場

藤塚地区

- 国指定仙台海浜鳥獣保護区の特別保護地区に指定されている井土浦があり、貞山運河周辺の環境とも相まって良好な自然環境が広がっている。
- 海岸公園復興基本計画では「湿地や干潟など自然環境の再生と、自然学習について学ぶゾーン」と位置付けられている。
- 平安時代から続く由緒ある五柱神社が震災による被害から再建され、元住民による管理が行われている。
- 跡地活用事業により2022年に複合施設（温泉、レストラン、カフェ、マルシェ等）が整備され、多くの方が訪れ賑わっている。
- 国のかわまちづくり支援制度等を活用した、河川と公園の一体的な空間づくりが進められることとなっている。



五柱神社



アクアイグニス仙台

名取市関上地区

- 地元の水産加工業者が中心となって日曜日・祝日に朝市が開催されており、多くの買い物客で賑わっている。
- 2018年から名取市が運営主体となって、ゆりあげ周遊船を運航している。
- 2019年に県の関上ヨットハーバーが再建され、高校生や大学生を中心に各種ヨット大会が開催されている。
- 国のかわまちづくり支援制度等を活用し地域の賑わいが新たに創出され、2021年にはその取り組みが「かわまち大賞」を受賞した。
- 震災後内陸部で開催されていたなとり夏祭りが、2022年から再び関上地区で開催されている。



かわまちてらす関上



ゆりあげ周遊船

(2) 貞山運河の賑わい創出に向けた動き

エリアを南北に貫く貞山運河は、歴史的な背景と美しい景観、豊かな自然環境を有した重要な資源であり、エリアをつなぐシンボルの一つです。震災により甚大な被害を受けましたが、復旧・復興が進められ、現在では様々な主体による賑わい創出に向けた取り組みが始まっています。

市民団体・民間団体の取り組み

貞山運河倶楽部

貞山運河フォーラムの開催や貞山運河小屋めぐり、貞山運河の曳舟の再現等のイベントを実施しています。

(2019年6月1日設立)



曳船イベント

一般社団法人貞山運河ネット

貞山運河に関する冊子の作成・配布や貞山運河サミットの開催、新堀の運航調査等を実施しています。

(2022年4月6日設立)



貞山運河歴史セミナー

行政の取り組み

海岸公園（藤塚地区）整備事業／仙台市

本市では藤塚地区の海岸公園整備に向け、2023年に海岸公園（藤塚地区）基本計画を策定しました。国のかわまちづくり支援制度等を活用し、河川と公園の一体的な空間をつくることで、賑わい創出を目指すこととしています。基本計画では、地域の歴史継承や湿地環境保全、親水護岸整備等の方針を示しています。



海岸公園（藤塚地区）整備イメージ

貞山運河舟運事業／名取市

名取市では2018年から名取川や貞山運河、広浦等の豊かな水資源を活用した舟運事業により、地域交流及び地域経済の活性化や観光事業の促進を図っています。2022年からは、①貞山運河コース、②名取川遊覧コース、③広浦・閑上港コースの3コースを運行しており、水辺に賑わいをもたらしています。



ゆりあげ周遊船

3. これからの海浜エリアを考えるために

(1) ヒアリングの実施

海浜エリアで様々な活動を展開する次の46団体を対象に、エリアの魅力、課題、将来像等についてヒアリング調査を行いました。（2022年9月～11月実施）

地域団体等

- ・井土町内会
- ・海辺の図書館
- ・神屋敷町内会
- ・旧藤塚町内会
- ・笹屋敷町内会
- ・三本塚町内会
- ・新浜町内会
- ・種次町内会
- ・なかの伝承の丘保存会
- ・二木町内会
- ・南蒲生町内会
- ・元荒浜住民の方々

震災メモリアル関連

- ・3.11 オモイデアーカイブ
- ・HOPE FOR project/荒浜灯籠流し実行委員会
- ・せんだい3.11メモリアル交流館

スポーツ・レクリエーション関連

- ・海岸公園センターハウス
- ・海岸公園馬術場
- ・海岸公園冒険広場
- ・ガモウパーク
- ・木村造機
- ・今野不動産株式会社
- ・仙台新港マスターズ実行委員会
- ・東北黒沢建設工業株式会社
- ・名取市サイクルスポーツセンター
- ・名取トレイルセンター

市民農園・農業関連

- ・株式会社MITU
- ・一般社団法人ReRoots
- ・荒浜のめぐみキッチン
- ・荒浜ワイワイガーデン
- ・遠藤環境農園
- ・カントリーパーク新浜
- ・せんだい農業園芸センター
- ・平松農園
- ・ファーム・SURF-SIDE 荒浜
- ・株式会社深沼アグリサービス
- ・有限会社ミドリ企画

商業・観光関連

- ・J Rフルーツパーク仙台あらはま
- ・アクアイグニス仙台
- ・麒麟ビール仙台工場
- ・仙台うみの杜水族館
- ・名取市商工観光課（貞山運河舟運事業）
- ・三井アウトレットパーク仙台港
- ・ゆりあげ港朝市・メイプル館

まちづくり・その他市民活動団体

- ・一般社団法人荒井タウンマネジメント（仙台海手ネットワーク事務局）
- ・貞山運河倶楽部
- ・一般社団法人貞山運河ネット

（五十音順、敬称略）

(2) 人々の声、そして想い

海浜エリアの魅力や貞山運河のこれからの姿、エリアの活性化を進める上で重視したい視点等、ヒアリング調査の主な結果は次のとおりです。

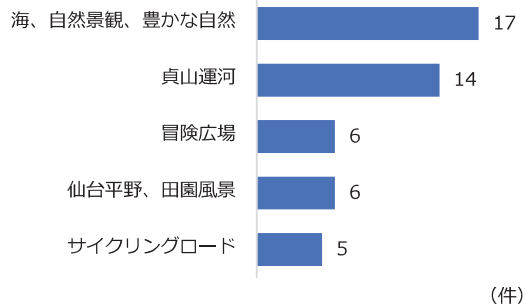
(全体の調査結果は参考資料「3. ヒアリング調査」(P22～32)を参照)

3

これからの海浜エリアを考えるために

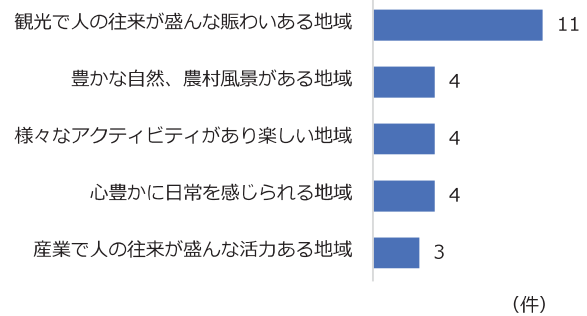
問 3-1：海浜エリアで**魅力的だと感じる場所や事柄**について、教えてください。【自由回答】

※キーワード抽出結果上位5つをグラフ化



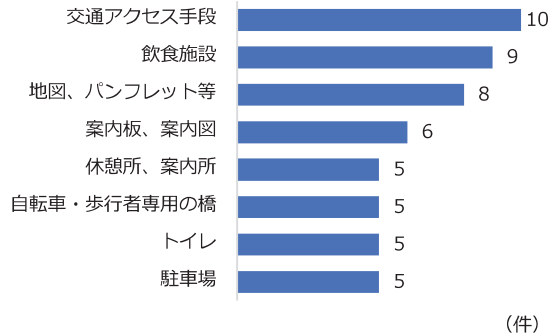
問 2-5：今後、活動（事業）エリア周辺は**どのように変わってほしい**とお考えですか。【自由回答】

※キーワード抽出結果上位5つをグラフ化

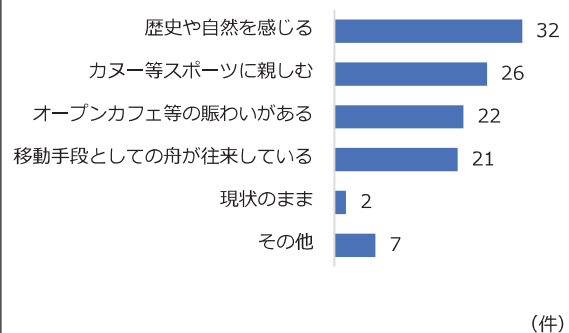


問 3-3：海浜エリアの**来訪者のために、必要と考えるモノ・コト**があれば教えてください。【自由回答】

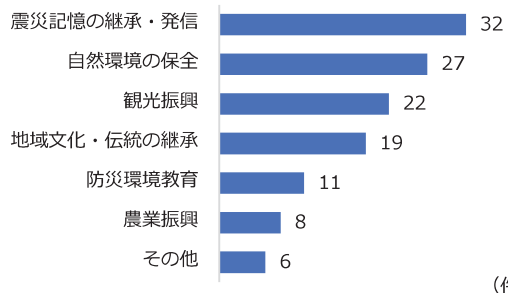
※キーワード抽出結果をグラフ化



問 3-5：これからの**貞山運河はどうあってほしい**と思いますか。あてはまる番号を全て丸で囲んでください。【複数回答】

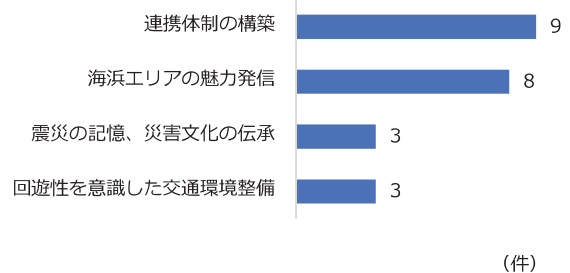


問 4-1：海浜エリア全体の**活性化を進める上で重視したい視点**について、3つまで丸で囲んでください。【複数回答】



問 4-4：その他、海浜エリアの**活性化に必要だと考えるモノ・コト**があれば教えてください。【自由回答】

※キーワード抽出結果上位4つをグラフ化



寄せられたご意見

魅力

山も海も市街地も田園もあるのは珍しく魅力的

青い海、広い空

農家のプロ意識

歩くことで見える景色

住民とその暮らし方

地域の人・文化・暮らし

灯籠流し

井土浦

海から昇る朝日

習慣、食べ物、お祭り、言葉

跡地利活用事業

釣りや SUP の場として
貞山運河を活用できる

津波で建物が流されて
空が広がったこと

藤塚の避難の丘からの眺望

かさ上げ道路から見える仙台平野

水面に映る貞山運河の
風景が素晴らしい

植樹された松が育つ様子

蒲生干潟

歴史的資源としての貞山運河

手付かずの自然

震災から 10 年以上も
活動を続ける人々

集客施設

寒い日の気嵐

地区ごとに特徴があり、季節によって
違う風景が見られるサイクリングロード

雪の積もった砂浜

求めるもの

地域全体の課題共有

域内連携の促進

災害時の逃げ道が
少なく分かりにくい

若者へのアプローチ

認知度向上

フォトスポット

車以外のアクセス手段がほしい

避難ルートを記したマップがほしい

ランドマークタワー

海辺の魅力を発信してほしい

トイレや食事処が必要。
コンビニもないのは厳しい

キッチンカーがあったらいいな

草刈り

活動資金の調達

渋滞緩和

大きな案内看板や標識の設置

エリアを回遊できる仕組みが必要

事業者と元住民を含めた
地域をつなぐ取り組みが必要

レンタサイクル

持ち歩き出来る地図が必要

人材育成

思い描く姿

大規模な集客施設や大きなイベントを
開催して、たくさんの人に来てほしい

海浜エリアのファンが増えてほしい

悲しい思い出もあるが、
楽しい思い出を作る場所にしてほしい

若い人がもっと海に親しめるような
場所になってほしい

海浜を実感できる食が楽しめる場所

活力ある地域

海水浴場が復活してほしい

明るい地域へのイメージ転換

性急な変化は必要ない

昔の町並みにもどってほしい

エリアの住民の想いが形になるように
変わってほしい

人の想いや営みが感じられる
場所にしていきたいことが必要

緩やかに時間をかけてゆっくりと
日常が生まれる場所になってほしい

交流人口が増加していく場所

地域の文化や伝統が
継承される元気な地域

官民が知恵をしぼり活動しやすい地域

豊かな自然を保全して、
都会と農村が共存する現状を
残してほしい

地域の人に住み続けられる場所

単なる事業活動が復興ではなく、
震災があったけれども、
昔は人が暮らしていたところを
大事にしながら事業を行うことが復興の姿

賑わいよりもこのまま
静かな地域であってほしい

日常の中でふらっと海を見るために
訪れるような場所

心豊かに住める地域

(3) 海浜エリアの将来像につなげる要素

エリアの魅力

海浜エリアには海岸線の干潟や湿地、貞山運河、実り豊かな田園、また季節を問わず人々が集まる商業施設等様々な場があり、サーフィンや釣り等の水辺のアクティビティはもちろん、乗馬や野球、ショッピングや観光等、幅広い世代が楽しむことができる資源が揃っています。それら多様な楽しみをつなぎ合わせることで、四季を通して楽しく遊べるエリアの姿が見えてきます。

一方で、ヒアリング調査では「心豊かに日常を感じられる地域になってほしい」「このまま静かな地域であってほしい」という意見も聞かれました。賑やかなだけでなく、広い空と海に囲まれてゆったりとくつろぎリフレッシュできる、穏やかな日常の中で憩いの時間を過ごせる海辺の空間も大きな魅力と言えます。

また、「震災の記憶の継承・発信」「自然環境の保全」「地域文化・伝統の継承」等も重視されており、被災した方々に想いを馳せるとともに、震災の記憶や災害文化、地域の歴史、豊かな自然環境を後世に伝えていくため、多様な学びのフィールドとしての活用も期待されています。

エリアの課題

海浜エリアでは様々な施設の整備が進んでいますが、エリア内を南北につなぐ交通手段は自家用車等に限られるため、利用しやすい交通手段、分かりやすい地図・パンフレット、案内板・案内図等、複数の施設や地区を巡りやすくするための取り組みが求められています。加えて、飲食施設・休憩所等滞在環境の充実も望まれています。コンビニやキッチンカーを求める声もありますが、仙台の食卓を支えてきた農産品や伝統的な食文化等の要素を生かした滞在環境の提供によって、訪問者に食を満喫してもらうことも考えられます。

また、エリアの魅力発信を課題とする声や、かつてお住まいだった方や現在お住まいの方、団体・事業者等による主体的な取り組みの後押しや担い手の育成を求める声、そして、それらの魅力や取り組みをつなぐ域内連携体制の構築を求める声も多く聞かれました。事業者や市民の様々な活動のつながりによる相乗効果によって新たな魅力を生み、それら多彩な魅力にあふれる姿を広く発信することで、集いの機会をもたらすことが期待されています。

4. 海浜エリアのコンセプト及び将来像イメージ

(1) 海浜エリアのコンセプト

つながりから生まれる、集いの海辺

多様な魅力・特徴をつなげ、これまで以上に人々が集う海浜エリアへ

前項に掲げるような要素を踏まえ、関係する様々な主体と共有する海浜エリアのコンセプトを『つながりから生まれる、集いの海辺』とします。

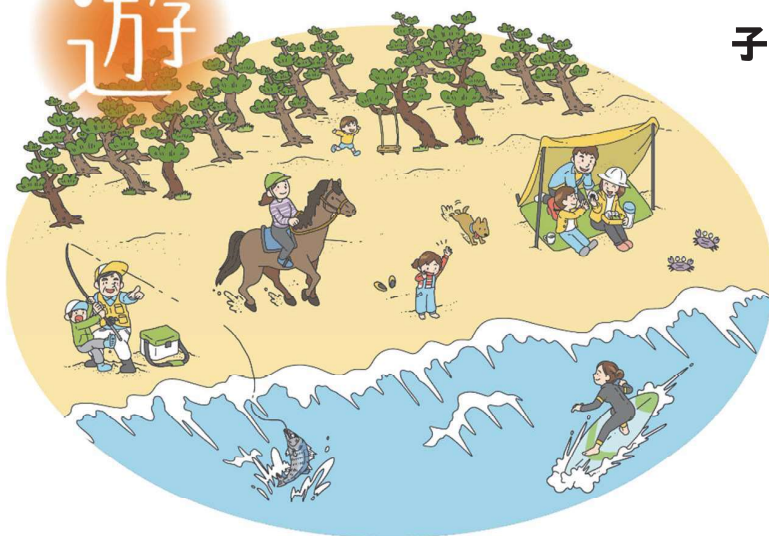
海浜エリアの多彩な魅力、エリアに関わる人々の活動や思いをつなぎ、それらを持続的に発展させていくことで、エリア全体の魅力を向上させ、これまで以上にたくさんの人々が集う場所となることを目指していきます。

(2) 将来像のイメージ

コンセプトを踏まえた海浜エリアの将来像を 6 つのキーワードとイラストで示します。関係する様々な主体とこれらを共有し、未来につながる取り組みをともに進めていきます。

あそぶ 遊	子どもから大人までみんなが楽しむ
たべる 食	地域の伝統と自然の恵みを活かす
いこう 憩	思い思いの時を過ごし、くつろぐ
めぐる 巡	移動を楽しみながら魅力と出会う
まなぶ 学	海辺の記憶を伝え、未来へつなぐ
つむぐ 紡	人々がつながり、集いを育む



あそぶ
遊

子どもから大人までみんなが楽しむ

多様な遊びの可能性が広がっている海浜エリア。世代を超えて人々が集い、潮風を感じながら、運河や海でのSUPやカヌー、公園でのテニスや野球等、思いっきり身体を動かして楽しい時間を過ごす、そんな空間へ。

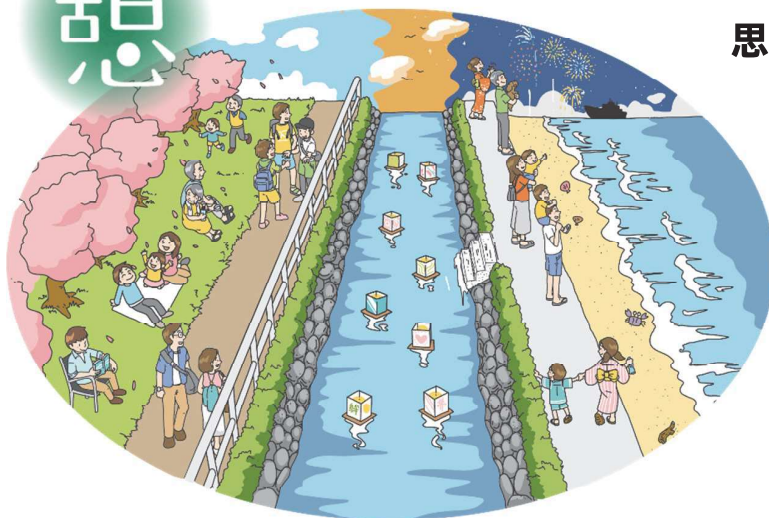
サーフィンや乗馬等のスポーツ、釣りやデイクャンプなどのレジャーを楽しむ人々

たべる
食

地域の伝統と自然の恵みを活かす

体験型観光農園や市民農園、複合商業施設などを通じて、新たな食の楽しみが生まれる海浜エリア。生産者と消費者、様々な食材、それらをつなぎ豊かな土地の恵みを堪能する、そんな空間へ。

農業や漁業等の生産者、果物狩りやバーベキューなどを楽しむ人々

いこう
憩

思い思いの時間を過ごし、くつろぐ

広大な海と空に囲まれ、思い思いの時間を過ごすことができる海浜エリア。アートやスポーツ、ショッピングを楽しむ。地域の歴史に触れる。朝日や星空、夜景を眺める。静かに思い偲ぶ。四季を通じて心の安らぎを得られる、そんな空間へ。

貞山運河沿いで花火や灯籠流し、お花見や読書等を楽しむ人々

つむぐ
紡

人々がつながり、集いを育む

かつてお住まいだった方や現在お住まいの方、様々な活動を展開する団体・事業者等、海浜エリアに関わる多様な人々のつながりを育む。連携と協働を促し、新たな推進力を生み出していく、そんな空間へ。

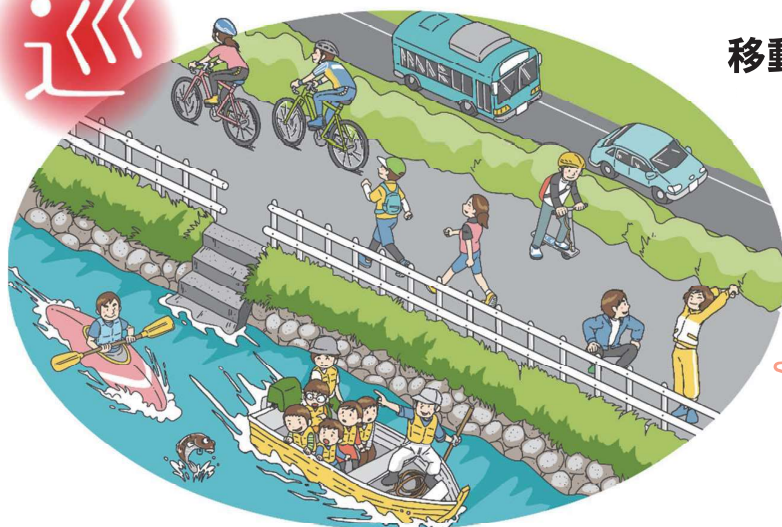
海岸防災林の植樹・育樹や海岸清掃、自然観察を行う人々

まなぶ
学

海辺の記憶を伝え、未来へつなぐ

海辺の景観と豊かな自然、歴史ある貞山運河、受け継がれてきた地域文化、震災の記憶の継承と鎮魂、災害文化の発信。海浜エリアの「これまで」と「これから」を広く伝え、そして未来につないでいく、そんな空間へ。

自然観察やVR等を活用した歴史学習、震災（防災）学習を行う人々

めぐる
巡

移動を楽しみながら魅力と出会う

貞山運河での舟運、田園地帯や海岸線でのトレイルやサイクリング、周遊バスなど、海浜エリアの豊かな自然を感じながら、移動そのものを楽しむことができる、そんな空間へ。

舟やカヌー、サイクリングやキックボード、トレイル等を楽しむ人々

5. 本市の取り組みの方向性

海浜エリアでは、津波被災により住み慣れた場所からの移転を余儀なくされた方々や、現地再建を選択し生活を続けている方々に加え、震災後、新たな市民活動や事業活動によりエリアに関わるようになった方々など、多様な人々が活性化に向けてそれぞれ主体的に取り組んでいます。

本市は、これら各活動主体との連携・協働を図りながら次の取り組みを進めます。

(1) 集いの空間づくり

海浜エリアが多くの人々に親しまれる新たな賑わいの空間となるよう、人々の関心を呼び起こし、実際の訪問や活動につなげ、安心して滞在していただくための取り組みを進めます。

来訪環境の整備

- 多くの人々に訪れていただけるよう、バスや自転車等、エリア内で利用できる交通手段の実証・検討を進めます。
- 目的地までの移動を分かりやすくするため、案内表示等の整備に向けた検討を進めます。
- エリアを訪れる人や活動する人のため、休憩スペースや道路照明等の整備を進めます。
- 海岸公園や高砂中央公園の野球場・テニスコート等の整備を進めます。
- 歩行者や自転車利用者が来訪しやすいよう、貞山運河沿いのサイクリングロードの環境整備を進めます。
- 海岸防災林の植樹・育樹を市民や企業、学校等の教育機関と連携して進め、森林浴や自然観察ができる環境整備を進めます。
- 津波避難施設や避難誘導サインの整備・管理を行うとともに、地域や事業者等と連携して津波避難方法の周知を図る等、防災意識向上のための取り組みを進めます。

各種コンテンツの利用促進

- エリアを象徴する海や砂浜の利活用に向けた検討を進めます。

- 農業者等の人材育成及び市民が農と触れ合える拠点施設として、せんだい農業園芸センターの活用を進めます。
- 生物多様性確保の観点から、貴重な干潟や湿地の保全に向けた取り組みを進めます。
- エリアに関わる多様な人々とともに、公共利用ゾーンの利活用に向けた検討を進めます。
- 大規模会議等の開催に併せ、エクスカーショントア一等によりエリアを体験し知っていただくための取り組みを進めます。
- エリア内の集客交流施設や近隣自治体と連携し、複数の施設や地区の回遊性を高めるための取り組みを進めます。

エリアに関する情報発信

- 多様な主体による活動やイベント、地域の歴史、農産物のPR等の情報提供を行い、エリアの魅力発信を進めます。
- エリアに関する情報を集約し幅広い層へ届けられるよう、地図やリーフレットの他、ポータルサイトやSNSなどによる情報提供を進めます。

(2) 親水空間としての貞山運河利活用

人々の暮らしとともにあった貞山運河は、明治時代の舟運による物流を支えた歴史的資源であり、また、野鳥や水生生物の貴重な生息空間でもあります。海浜エリアを南北に貫く貞山運河をこの地域のシンボルの一つとして捉え、行政機関や関係団体と連携しながらその利活用を進めます。

- 貞山運河の水中地形測量調査を行い、運河の利活用に向けた検討を進めます。
- 貞山運河を管理する国や宮城県と連携して、運河の水質を把握するとともに、水質改善に向けた検討を進めます。
- 貞山運河のさらなる利活用に向けて人々が運河に親しみを抱けるよう、新たに海岸公園（藤塚地区）の整備を進めるほか、他地区においても親水護岸整備に向けた検討を進めます。

(3) 様々な「つながり」を大きな「つながり」に

海浜エリアでは、多くの人々の手によって、多様なつながりが生まれています。地域にお住まいだった方々や現在関わっている方々のご意見を伺いながら、様々な活動主体が将来像を共有しそれぞれの取り組みに反映できるよう、相互の連携と協働を推進します。

- 震災遺構仙台市立荒浜小学校や、せんだい 3.11 メモリアル交流館などと連携しながら、地域団体・市民活動団体・事業者とともに震災の記憶と記録の継承を進めます。
- 地域団体や市民活動団体等による主体的な活動への支援を進めます。
- エリア活性化の未来の担い手となる子どもたちが、地域の歴史や文化、自然等について継続的に学ぶ機会の提供を進めます。
- 海浜エリアに関わりを持つ人々の想いをつなぎ、また、より多くの人々に海浜エリアへの関心を寄せてもらえるよう、アートを通じた交わりと学びを地域に展開する取り組みを進めます。
- 多様な主体による活動を持続的に発展させ、エリア全体の活性化が図られるよう、活動主体同士の交流や意見交換の場づくり、相互の連携・協働を進めます。

6. ビジョンの推進

海浜エリア全体の価値向上につながるよう、本ビジョンの趣旨を本市の実施計画や関係局区の計画・事業へ反映し、多様な主体との連携を強化することで、ビジョンの実現に向けた取り組みを推進していきます。

(1) 本市の計画・施策への反映

本ビジョンに掲げる取り組みを具体的な施策として推進するため、以下のとおり計画・施策への反映を図ります。

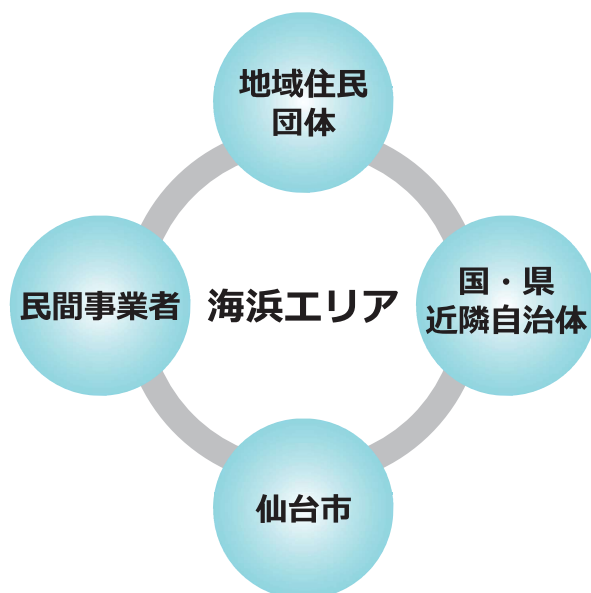
- 本ビジョンの趣旨を踏まえた事業を本市実施計画へ盛り込み、評価・点検のうえ事業の改善を図ります。
- 庁内関連計画・施策への本ビジョンの趣旨の反映に取り組みます。

(2) 本市における推進体制

エリアに関連する事業が多岐にわたることから、庁内関係部局間での緊密な情報共有と組織横断的な検討や調整を行い、効果的かつ一体的な施策展開を図ります。

(3) ビジョンの共有と連携

本ビジョンの推進に向けて、エリアの将来像や本市の取り組みについて積極的に広報し、周知を図るとともに、地域住民・団体、民間事業者、国・県・近隣自治体等、多様な主体との連携を強化し、取り組みを進めていきます。



参考資料

1. 海浜エリア活性化シンポジウム

海浜エリアでの活動事例紹介を行いながら、エリアの将来像や過ごし方、楽しみ方等について参加者と一緒に考える機会として「海浜エリア活性化シンポジウム～海辺から発信する6つの将来像～」を開催しました。

○日 程：2023年8月26日（土）14：00～16：00

○場 所：せんだいメディアテーク1階オープンスクエア

○参加者：約 90 名



シンポジウムチラシ

海浜エリアでの活動事例紹介

「きっかけとしての深沼ビーチクリーン」

海辺の図書館 館長 庄子隆弘氏

若林区荒浜の住宅跡地を拠点に、かつての荒浜の生活や文化を伝える活動を行っています。子どもが素足で歩けるような砂浜を目指し、毎月ビーチクリーンを開催しています。



「ハマヒルガオプロジェクト」

仙台市立岡田小学校 6年生のみなさん

津波の被害を受けたハマヒルガオ等の海浜植物を再生させるため、地域の方等の協力をいただきながら、海辺で採取した種を育て、現地に植栽しています。美しい海辺の花々を見てみませんか。

「新たな賑わい創出への取り組み」

JR フルーツパーク仙台あらはま
観光農業部担当部長 渡部善久氏

「震災復興」「地域連携」「農業振興」の3つの目標を掲げ、若林区荒浜が再び人が集う場所となるよう、観光果樹園を運営しています。1年を通して果物狩りを楽しむことができます。



ディスカッション

6つの将来像をテーマに、海浜エリアの将来像や過ごし方、楽しみ方等について、参加者それぞれが付箋にアイデアを記入し、テーマごとにボードに貼り付け、会場全体で共有しました。

会場から寄せられたアイデア（抜粋）

あそぶ
遊

- 貞山運河をカヤックや SUP で遊ぶ
- 海水浴ができる海がほしい
- 遊びに行くだけでなく、子どもが豊かな環境で暮らし、学び、育つというイメージも大事に

たべる
食

- ドジョウやイナゴを食べてみたい
- 海に見えるカフェ
- 生産者や元住民の方とお話ししながらお酒を楽しみたい

いこう
憩

- 賑わいと静かな時間を楽しめる場
- 海辺でワーケーションしたい
- 松林の再生で白砂青松を再び見たい。その下で読書三昧

めぐる
巡

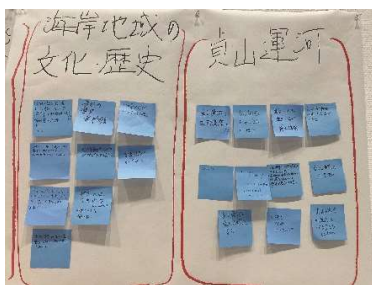
- 秋のサイクリングが気持ちよさそう
- 多様な移動手段
- 地域に暮らす人が海に行き来しやすいようにできるとよい

まなぶ
学

- どんな海浜植物があるか調べてみたい
- 絵を描く場所があるといいな
- それぞれの地域の昔のことを聞きたい

つむぐ
紡

- クリーン運動できれいになった海岸を PR 出来たらいいな
- 祭り
- マルシェで生産者と消費者の交流を



2. 本市関連計画等における海浜エリアの位置づけ

仙台市基本計画

「仙台市基本計画 2021-2030」（2021年3月議決）では、仙台の地勢や地域の特色を踏まえた土地利用の方針を示す「土地利用方針図」において、仙台塩釜港周辺を「工業・流通・研究地域」、東部復興道路（かさ上げ道路）以東の大部分を「集落・里山・田園ゾーン」、一部を「交流再生区域」、さらに海岸線沿いを「自然環境保全ゾーン」として位置付けています。

また、仙台の強みや現状を踏まえて重点的に取り組む「チャレンジプロジェクト」の一つとして掲げる「杜と水の都プロジェクト」では、自然環境、海岸公園、レクリエーション施設等の海辺の資源の活用やネットワーク化を進め、東部沿岸地域一帯に賑わいを生み出すこととしています。

仙台市都市計画マスタープラン

都市計画法第18条の2の規定に基づく「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として定める「仙台市都市計画マスタープラン～都市計画に関する基本的な方針2021-2030」（2021年3月策定）では、沿岸部の一部を「交流再生区域」と位置付け、地域の特性を活かした新たな魅力を創出し、地域の歴史や文化、東日本大震災の記憶と経験を国内外へ発信し、継承することとしています。

杜の都環境プラン（仙台市環境基本計画）

「杜の都環境プラン（仙台市環境基本計画）2021-2030」（2021年3月議決）では、本市の自然地理的特性や土地利用の状況等を踏まえ5つの地域に区分し、各地域における土地利用の基本的な考え方と環境に配慮すべき事項を示した「土地利用における環境配慮の指針」を示しています。

海浜地域における環境配慮の指針

- ・干潟や砂浜など多様な生きものが生育・生息する自然環境を保全し、原則として開発事業等は実施しない。
- ・多様な生きものの生育・生息環境であり、防災上も重要である海岸林の再生を進める。
- ・地域に根差した歴史・文化、自然資源等の保全に努める。また、これらの魅力を発信し、自然とのふれあいの場や環境教育・学習の場として活用するなど、地域資源の価値を高める。
- ・自然観察や海岸の美化活動など、自然とのふれあいの機会の創出に努める。

仙台市みどりの基本計画

「仙台市みどりの基本計画2021-2030」（2021年6月策定）では、田園・海岸について、農地の適正な保全や生物多様性の保全、地域固有の景観の維持等を実現するとともに、市民協働による海岸防災林の再生を進めることで防災・減災機能を高めながら、東部エリアのにぎわい、活性化を目指すこととしています。また、重点的な取り組みとして、仙台ならではののみどりである居久根や貞山運河等地域資源の利活用を進めることとしています。

海岸公園復興基本計画

「海岸公園復興基本計画」（2013年11月策定）では、海岸公園の復興に向け策定された「海岸公園復興基本構想」（2013年3月策定）における基本指針「自然と人のつながりの再構築」「震災記憶の継承」「新たな賑わい・交流の創出」に基づき、海岸防災林や貞山運河、海等の自然資源を活用し、自然と人とのつながりが感じられる空間づくり等を目指すこととしています。

仙台市東部沿岸部の集団移転跡地利活用方針

「仙台市東部沿岸部の集団移転跡地利活用方針」（2017年3月策定）は、仙台の新たな魅力や価値を創造する土地利用を目指すため、将来にわたって、跡地利活用に係る基本理念や土地利用方針を、地域の方々や事業者、市民、行政とで共有すること等を目的として策定されたものです。

本方針では、移転跡地の土地利用方針として、市街地では実現困難な新たな土地利用や、地域が主体となる新たな土地利用など、この移転跡地を人々が訪れる「新たな魅力の場」として実現する土地利用を促していくとともに、各地区の特性を活かした多様な魅力を連携させることにより、東部沿岸部全体の回遊性の創出を目指していくこととしています。

移転跡地利活用の基本理念

『つたえ、つなぎ、そしてつくる、新たな海辺の魅力と未来の仙台』

「つたえる」 そこにあったひとの営み、震災の記憶と復興の軌跡を伝えていく

「つなぐ」 地域が誇る自然、海辺の豊かな環境とひととを繋いでいく

「つくる」 かつての賑わい、そして新たな価値とひとの活力を創っていく

仙台市災害危険区域条例

建築基準法第39条の規定に基づき、災害危険区域の指定及び災害危険区域内における建築物の建築の制限に関し必要な事項を定めた「仙台市災害危険区域条例」の改正（2011年12月）により、仙台市沿岸部（若林区・宮城野区の沿岸部の一部）が災害危険区域に指定されました。

3. ヒアリング調査

(1) 概要

- ・調査期間：2022 年 9 月～11 月
- ・調査対象：海浜エリアで活動を展開する 46 団体
- ・調査項目：問 1.現在の活動（事業）について
問 2.今後の活動（事業）について
問 3.海浜エリアについて
問 4.海浜エリア全体の将来像について

・調査先一覧

- | | |
|--|----------------------|
| ・ 3.11 オモイデアーカイブ | ・ 三本塚町内会 |
| ・ 株式会社 MITU | ・ 新浜町内会 |
| ・ HOPE FOR project/荒浜灯籠流し実行委員会 | ・ せんだい 3.11 メモリアル交流館 |
| ・ J R フルーツパーク仙台あらはま | ・ 仙台うみの杜水族館 |
| ・ 一般社団法人 ReRoots | ・ 仙台新港マスタース実行委員会 |
| ・ アクアイグニス仙台 | ・ せんだい農業園芸センター |
| ・ 一般社団法人荒井タウンマネジメント
(仙台海手ネットワーク事務局) | ・ 種次町内会 |
| ・ 荒浜のめぐみキッチン | ・ 貞山運河倶楽部 |
| ・ 荒浜ワイワイガーデン | ・ 一般社団法人貞山運河ネット |
| ・ 井土町内会 | ・ 東北黒沢建設工業株式会社 |
| ・ 海辺の図書館 | ・ なかの伝承の丘保存会 |
| ・ 遠藤環境農園 | ・ 名取市サイクルスポーツセンター |
| ・ 海岸公園センターハウス | ・ 名取市商工観光課（貞山運河舟運事業） |
| ・ 海岸公園馬術場 | ・ 名取トレイルセンター |
| ・ 海岸公園冒険広場 | ・ 二木町内会 |
| ・ 神屋敷町内会 | ・ 平松農園 |
| ・ ガモウパーク | ・ ファーム・SURF-SIDE 荒浜 |
| ・ カントリーパーク新浜 | ・ 株式会社深沼アグリサービス |
| ・ 木村造機 | ・ 有限会社ミドリ企画 |
| ・ 旧藤塚町内会 | ・ 三井アウトレットパーク仙台港 |
| ・ キリンビール仙台工場 | ・ 南蒲生町内会 |
| ・ 今野不動産株式会社 | ・ 元荒浜住民の方々 |
| ・ 笹屋敷町内会 | ・ ゆりあげ港朝市・メイプル館 |

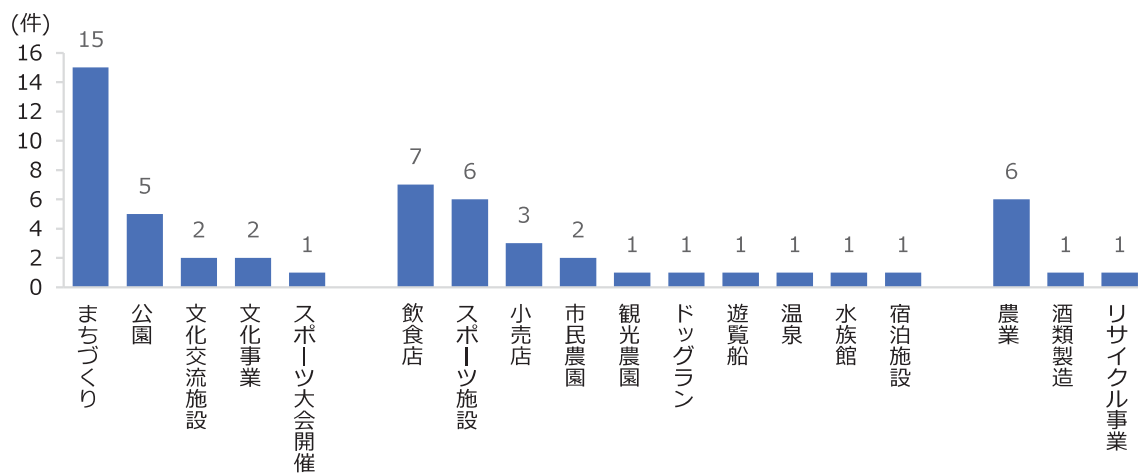
(五十音順、敬称略)

(2) 調査結果

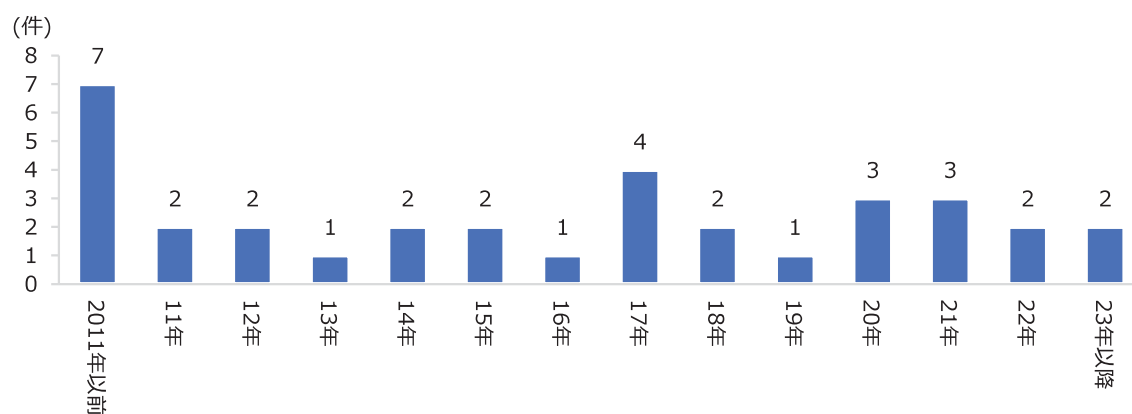
問 1. 現在の活動（事業）について

問 1-1：現在の活動（事業）の概要について教えてください。【自由回答】

※キーワード抽出結果をグラフ化

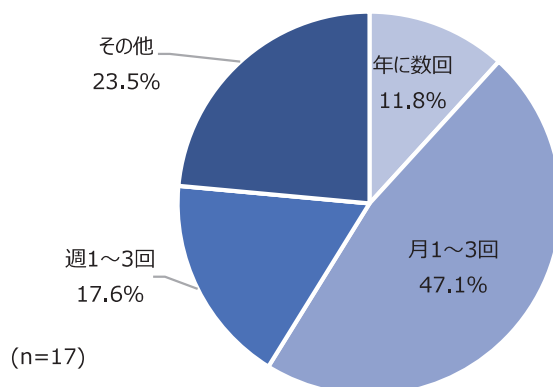


問 1-2：現在の活動（事業）を開始した時期（西暦）を教えてください。

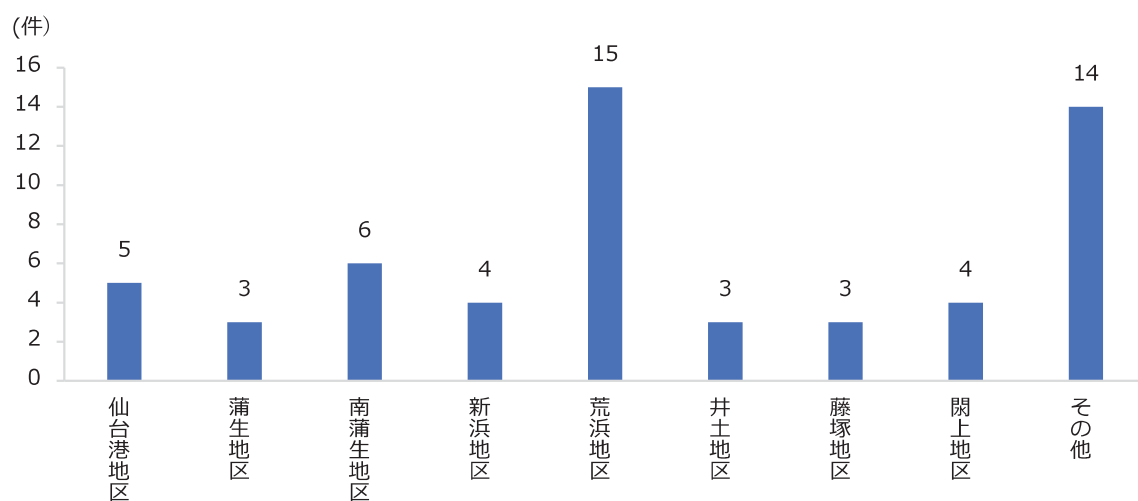


【地域団体・市民活動団体のみ対象設問】

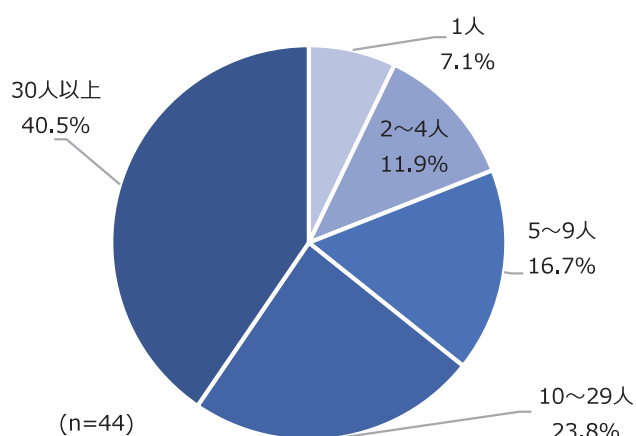
問 1-3：活動の頻度について、最もあてはまる番号を丸で囲んでください。



問1-4：活動（事業）を行っているエリアについて、あてはまる番号を全て丸で囲んでください。【複数回答】

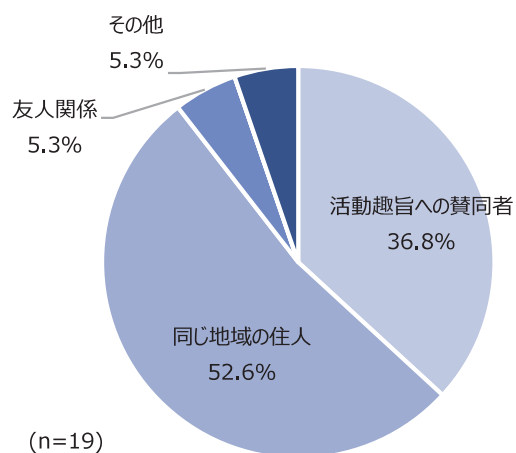


問1-5：メンバー数（従業員数）について、あてはまる番号を丸で囲んでください。

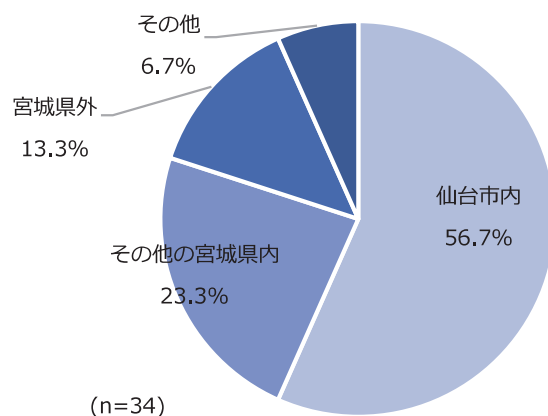


【地域団体・市民活動団体のみ対象設問】

問1-6：現在の活動メンバーの属性について、最もあてはまる番号を丸で囲んでください。

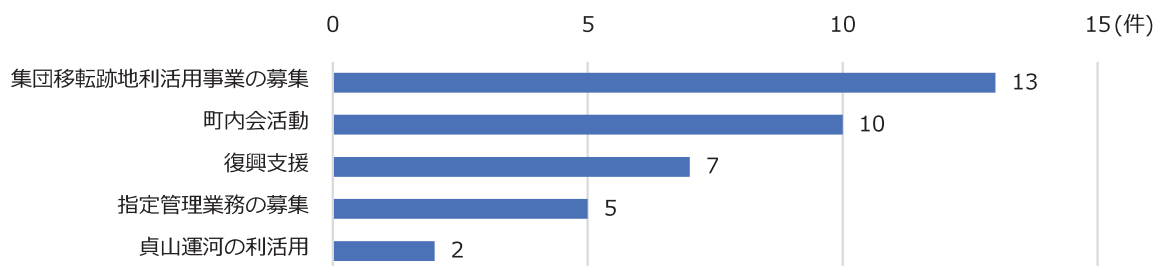


問1-7：活動で行っているイベント等の来場者（事業者の皆様の場合は、事業におけるお客様）は、主にどのエリアから来られますか。最もあてはまる番号を丸で囲んでください。



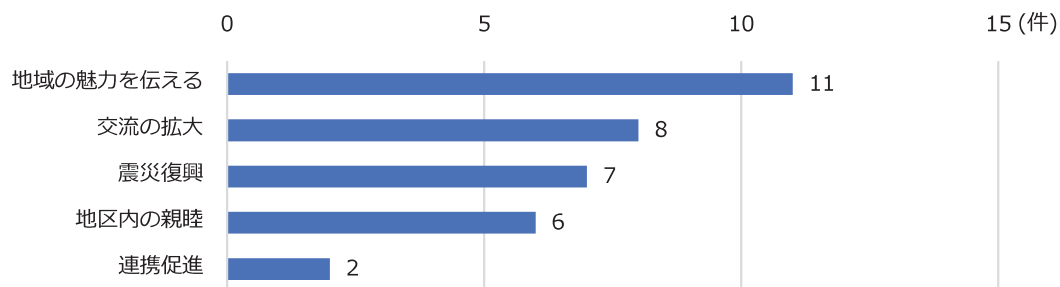
問1-8：問1-1の活動（事業）を行うことになった「きっかけ」（内容・時期・場所等）を教えてください。【自由回答】

※キーワード抽出結果上位5つをグラフ化



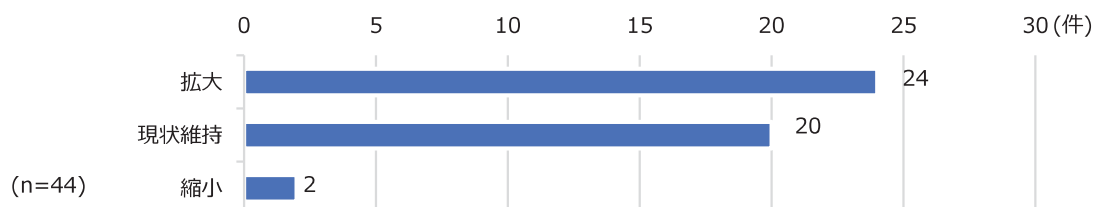
問1-9：問1-1の活動（事業）を行う上で大切にしていること（理念）を教えてください。【自由回答】

※キーワード抽出結果上位5つをグラフ化

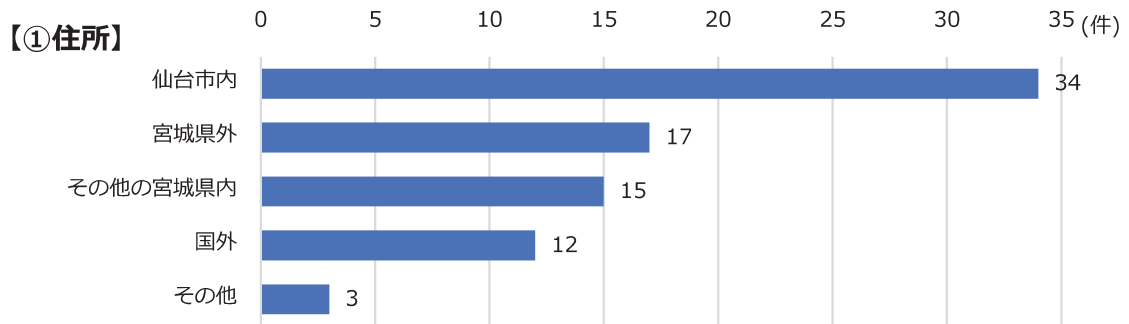


問2. 今後の活動（事業）について

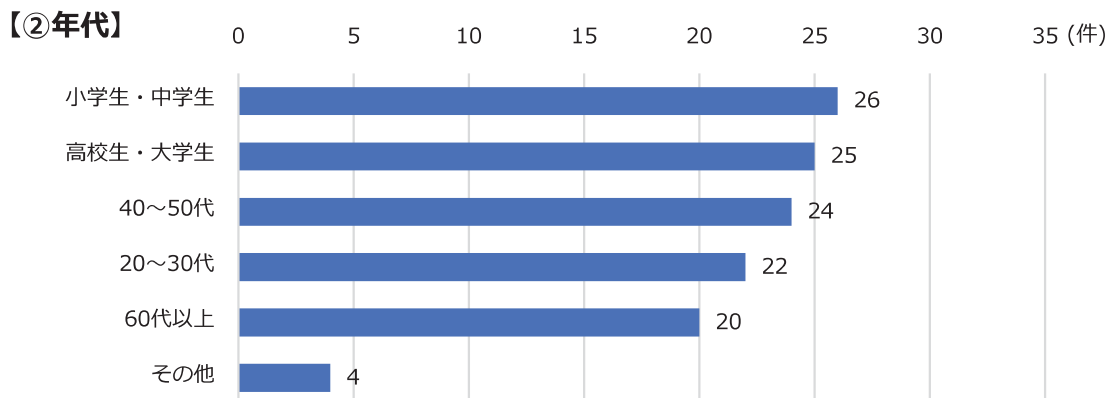
問2-1：今後の活動（事業）規模について、どのようにしたいとお考えですか。あてはまる番号を1つ丸で囲んでください。



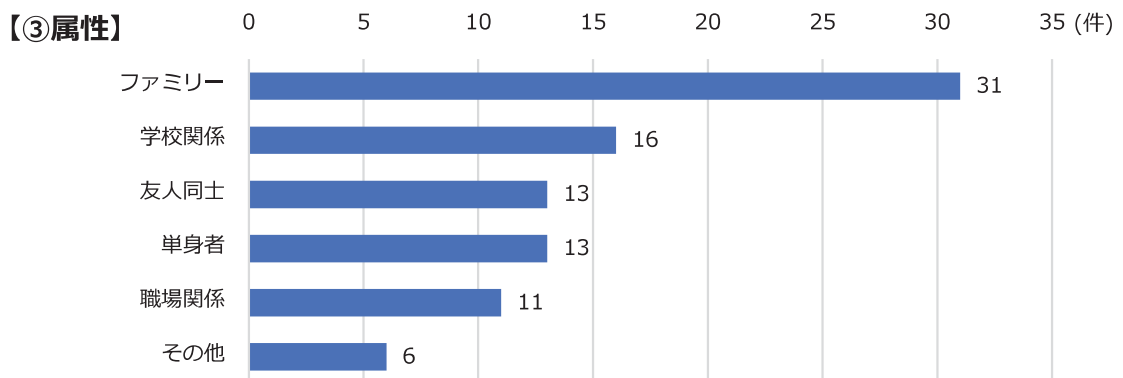
問2-2：今後の活動で行うイベント等に来てほしい方（事業者の皆様の場合は今後の事業のターゲットとしたいお客様）について、あてはまる番号を全て丸で囲んでください。
【複数回答】



- ・第1位の「仙台市内」が突出しており、第3位の「その他の宮城県内」（仙台市以外の宮城県内）と合わせると、地元である宮城県内の人を主なターゲットと捉えている回答者が最多となっている。
- ・一方、「国外」が12件あり、インバウンド需要も視野に入れた回答者が一定数存在することが分かる。



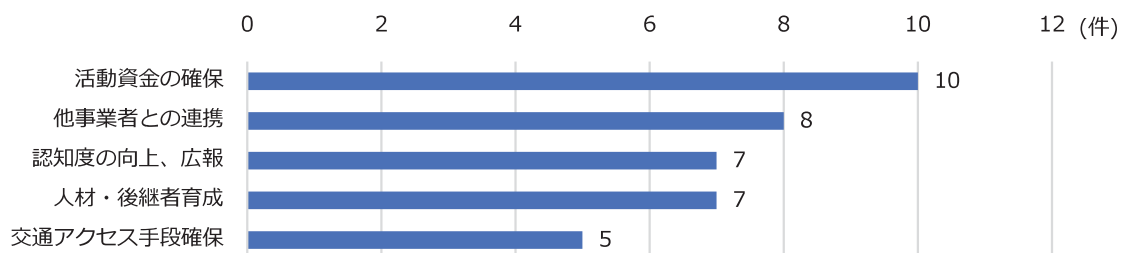
- ・大きな差は見られないものの、第1位が「小学生・中学生」、第2位が「高校生・大学生」となっており、比較的若い世代をターゲットと捉えている回答者が多くなっている。



- ・第1位が「ファミリー」、第2位が「学校関係」となっており、「②年代」の回答と同傾向であると言える。

問 2-3：今後の活動（事業）を行っていく上での課題や、必要と考えるモノ・コトがあれば教えてください。【自由回答】

※キーワード抽出結果上位 5 つをグラフ化

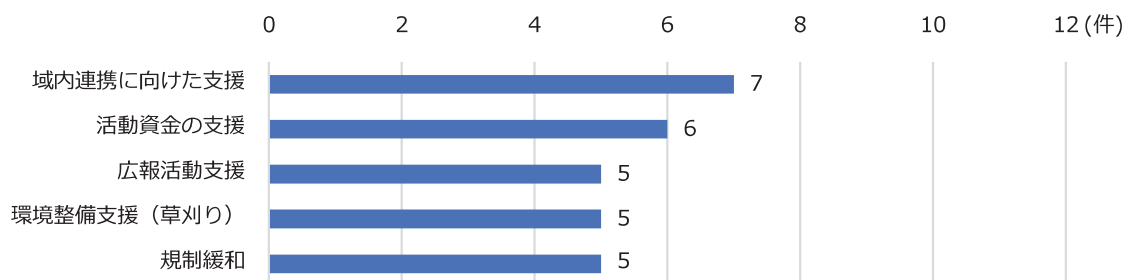


【上記以外の主な回答】

草刈り対応、施設までの案内版設置、防犯対策の検討、サイクリングロードの避難路確保、自転車による来場者の安全確保、貞山運河利活用のための環境整備、規制緩和

問 2-4：今後の活動（事業）を行っていく上で、行政（国・県・市）に進めてほしい施策があれば教えてください。【自由回答】

※キーワード抽出結果上位 5 つをグラフ化



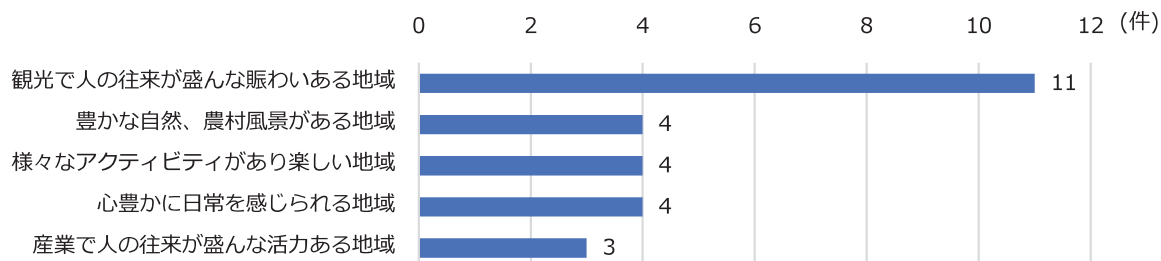
【上記以外の主な回答】

交通アクセス手段の改善、トイレやシャワーの整備、仙台市と名取市の連携、貞山運河利活用のための環境整備、自転車による来場者の安全対策、防犯対策の検討、マップ制作、自転車・歩行者専用の橋の設置、サイクリングロードと各施設の接続路の整備

・問 2-3、問 2-4 とともに、同趣旨の選択肢（活動資金、他事業者との連携、広報活動）が上位 3 位を占めている。

問 2-5：今後、活動（事業）エリア周辺はどのように変わってほしいとお考えですか。【自由回答】

※キーワード抽出結果上位 5 つをグラフ化



【上記以外の主な回答】

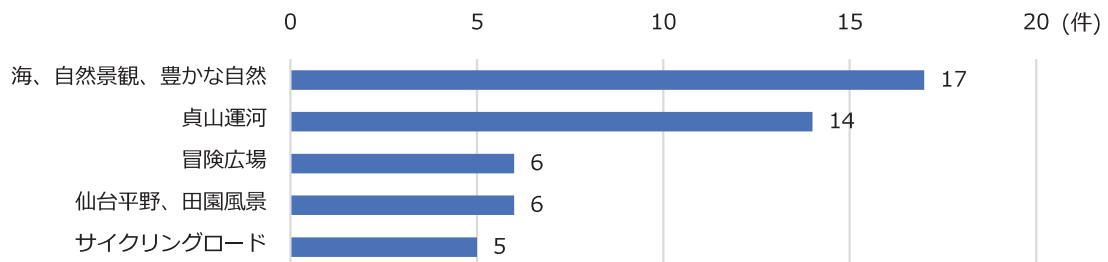
地元住民との交流がある地域、自然の中に人々が集まる地域

・第 1 位の「観光で人の往来が盛んな賑わいある地域」が突出しているが、次いで「豊かな自然、農村風景がある地域」「様々なアクティビティがあり楽しい地域」「心豊かに日常を感じられる地域」が同率 2 位となっており、観光地化を望む声ばかりではなく、今ある自然や農村、心の豊かさ、といった要素も求められていると言える。

問 3. 海浜エリアについて

問 3-1：海浜エリアで魅力的だと感じる場所や事柄について、教えてください。【自由回答】

※キーワード抽出結果上位 5 つをグラフ化



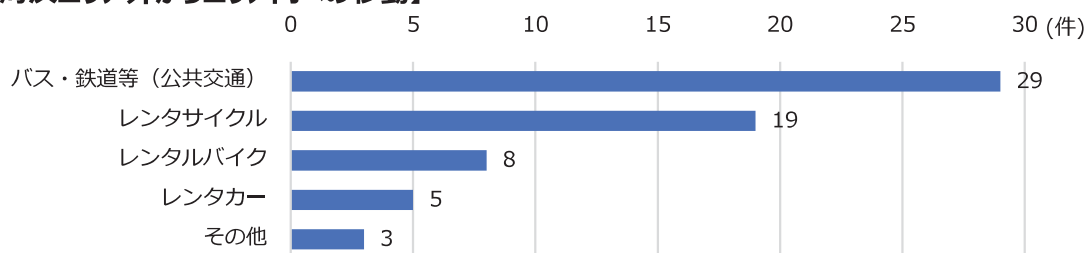
【上記以外の主な回答】

松林、地域の人・暮らし・生活、サーフィン、井土浦、避難の丘、空、震災遺構、蒲生干潟、釣り、馬術場

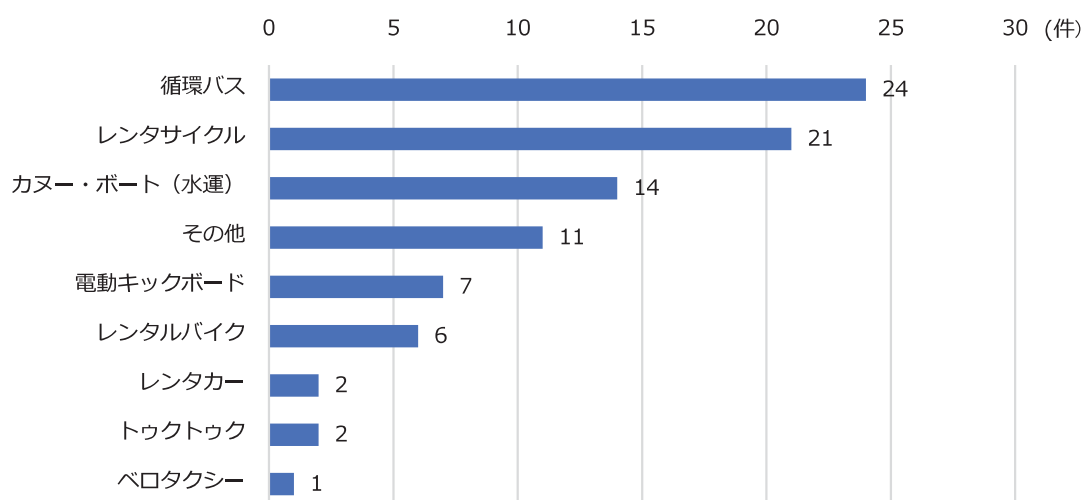
・第 1 位が「海、自然景観、豊かな自然」であり、この他にも自然に関連するキーワードが多く寄せられた。

問 3-2：現在、車で往来する方が多い海浜エリアで、今後、必要と考える移動手段について、あてはまる番号を全て丸で囲んでください。【複数回答】

【①海浜エリア外からエリア内への移動】



【②海浜エリア内での移動】

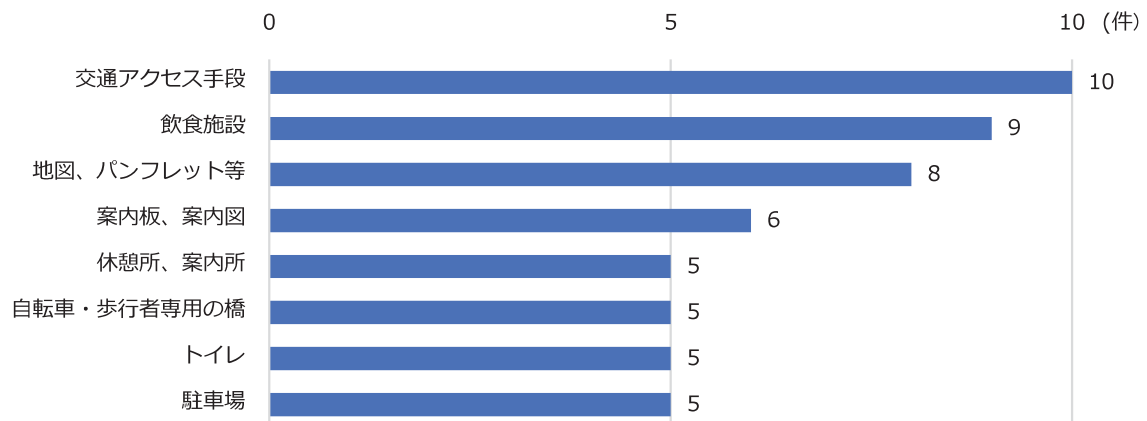


・「海浜エリア外からエリア内への移動」「海浜エリア内での移動」の双方とも、「バス」と「レンタサイクル」が上位を占めている。

問3-3：海浜エリアの来訪者のために、必要と考えるモノ・コトがあれば教えてください。

【自由回答】

※キーワード抽出結果をグラフ化

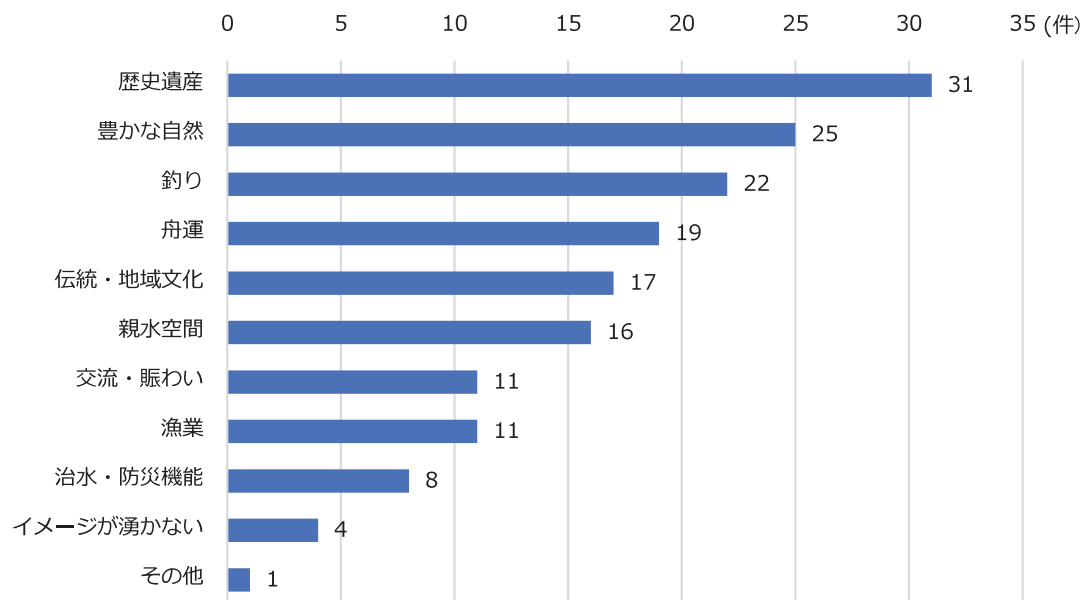


【上記以外の主な回答】

休憩所・案内所、渋滞緩和、名物・ランドマーク、レンタサイクル、農産物直売所、良好な電波環境

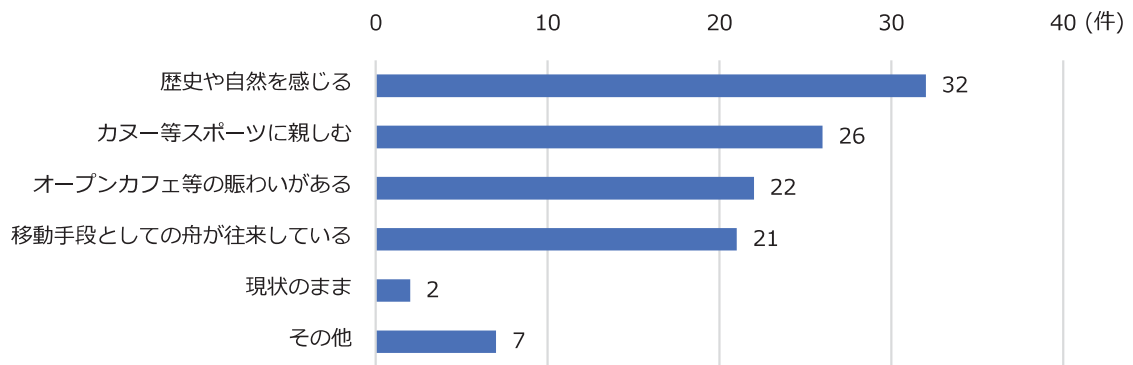
- ・第1位の「交通アクセス手段」のほか、第3位「地図、パンフレット等」、第4位「案内板、案内図」といった移動・案内に関するキーワードが上位を占めている。
- ・また、「飲食施設」が第2位となっている。

問3-4：海浜エリアを南北に流れる貞山運河に対するイメージとして、あてはまる番号を全て丸で囲んでください。【複数回答】



- ・第1位が「歴史遺産」となっており、貞山運河が歴史あるものとして認知されていることが分かる。
- ・また、第2位が「豊かな自然」、第3位が「釣り」となっていることから、自然を楽しめる場としても認知されていることが分かる。

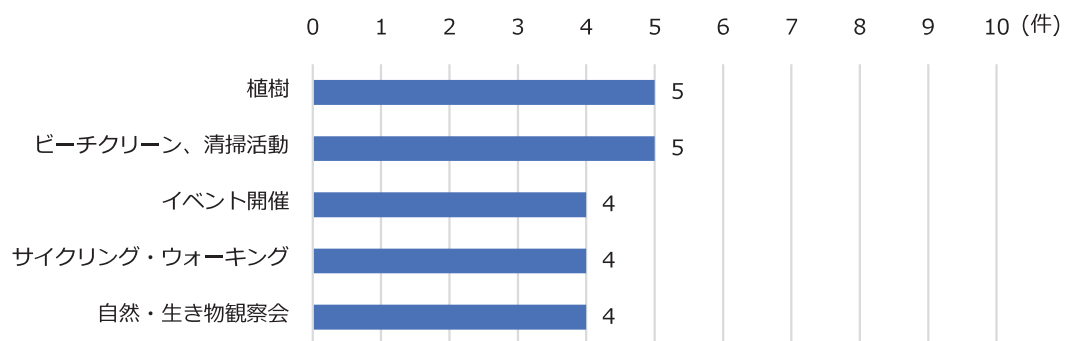
問 3-5：これからの貞山運河はどうあってほしいと思いますか。あてはまる番号を全て丸で囲んでください。【複数回答】



・第1位が「歴史や自然を感じる」となっており、問 3-4（貞山運河に対するイメージ）の回答と同傾向である。

問 3-6：現在、貞山運河や海岸を活動の場として取り組んでいることがあれば教えてください。【自由回答】

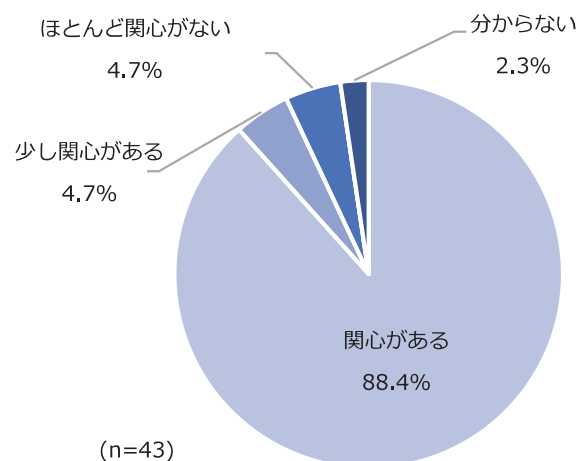
※キーワード抽出結果上位 5 つをグラフ化



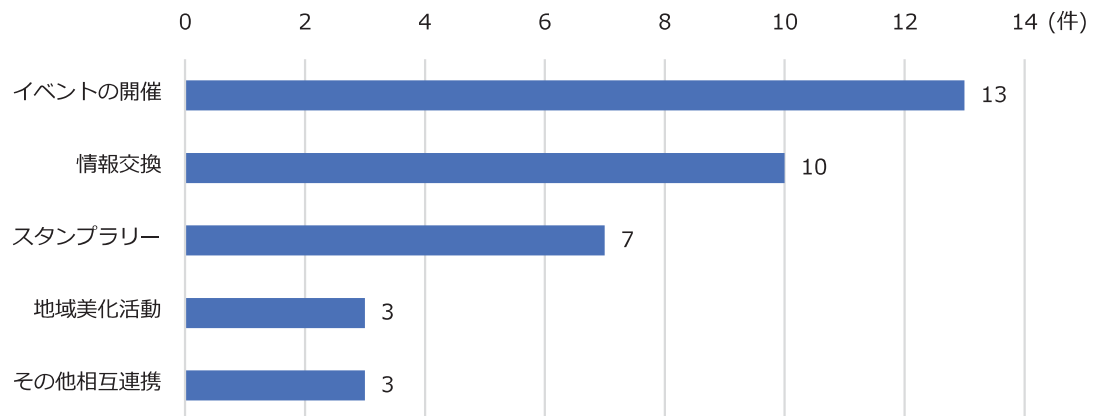
【上記以外の主な回答】

サイクリング、ウォーキングツアー、イベントの支援、カヌー・カヤックなどの親水イベント、サーフィン、釣り、灯籠流し、貞山運河歴史ツアー、周遊船の運航

問 3-7：海浜エリアで活動されている他団体・他事業者の皆様との相互連携に関心がありますか。最もあてはまる番号を丸で囲んでください。



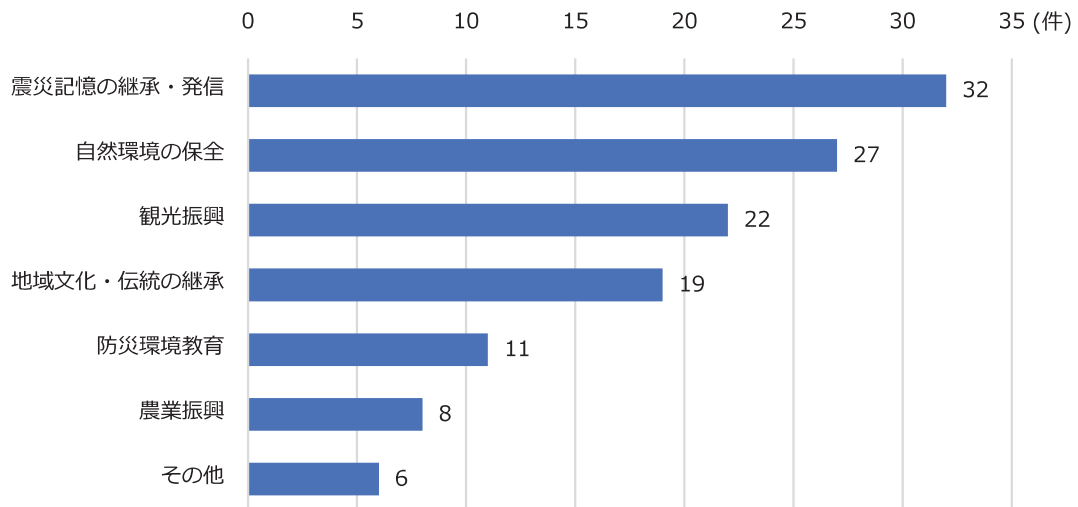
問3-8：現在、他団体・他事業者の皆様と相互連携中の取り組みや、今後、相互連携により取り組みたいことがあれば教えてください。【自由回答】 ※キーワード抽出結果上位5つをグラフ化



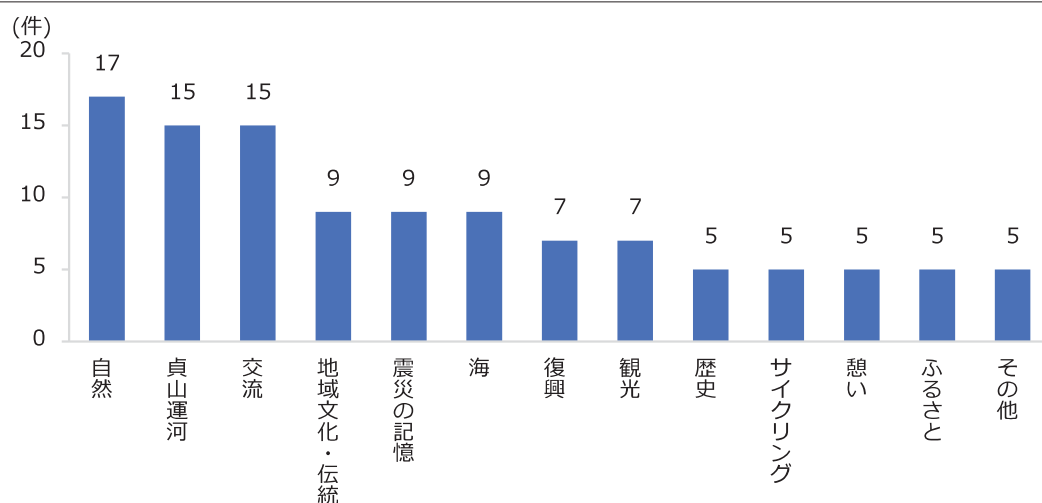
・第1位が「イベントの開催」、第3位が「スタンプラリー」となっており、相互送客への関心が高いことが伺える。

問4. 海浜エリア全体の将来像について

問4-1：海浜エリア全体の活性化を進める上で重視したい視点について、3つまで丸で囲んでください。【複数回答】



問 4-2：海浜エリア全体の将来像として当てはまるキーワードを、3 つまで丸で囲んでください。【複数回答】



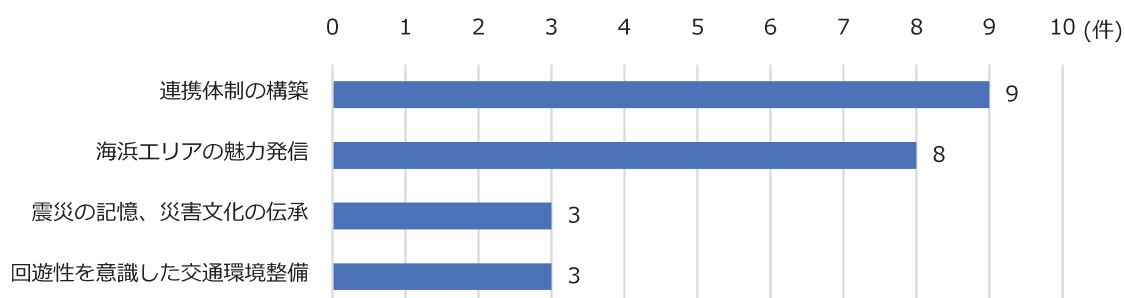
- ・ 問 4-1 の回答上位 4 項目「震災記憶の継承・発信」「自然環境の保全」「観光振興」「地域文化・伝統の継承」に関連のある回答が、問 4-2 においても上位となっている（第 1 位「自然」、同率 4 位「地域文化・伝統」「震災の記憶」「海」、同率 7 位「復興」「観光」）。
- ・ 問 4-2 において「貞山運河」「交流」が同率 2 位となっており、「自然」や「海」に加え貞山運河も海浜エリアのシンボルとして捉えられていることや、回答全項目に通底する「交流」というキーワードが重視されていることが伺える。

問 4-3：海浜エリア全体の将来像としてイメージされる具体の事例があれば、教えてください。【自由回答】

- ・ 横浜、山下公園のような憩い、食、ショッピングの要素が集約した地域
- ・ 小樽や横浜の赤レンガ倉庫のような地域
- ・ アメリカ西海岸
- ・ 倉敷のような水路にめぐまれた城下町のような地域
- ・ ポートランドのような多様な人たちにとって居心地の良い地域
- ・ 逗子市のような安心して過ごせる海辺の環境が整備されている地域
- ・ ドイツ・エムシャーパーク公園
- ・ 軽井沢のような自然の中に人が集うような地域
- ・ 関上や七ヶ浜のような活気溢れる地域
- ・ 長野県飯田市のような豊かな自然を気軽に堪能できる地域

問 4-4：その他、海浜エリアの活性化に必要だと考えるモノ・コトがあれば教えてください。【自由回答】

※キーワード抽出結果上位 4 つをグラフ化



海浜エリア活性化ビジョン

令和 5 年 10 月

宮城野区海浜エリア活性化担当

〒983-8601 仙台市宮城野区五輪 2 丁目 12-35

TEL : 022-291-2111 (代表)

若林区海浜エリア活性化企画室

〒984-8601 仙台市若林区保春院前丁 3-1

TEL : 022-282-1111 (代表)